



大腸の手術について

外科 村尾 直樹

当院外科は地域の急性期医療を担う病院として腹部救急疾患の診療を、またがん診療連携拠点病院として様々な消化器のがん診療を行っております。

今回はその中でも「大腸外科」についてご紹介いたします。

がんの中でも大腸がんは罹患数が男女とも2位、死亡数は男性が2位、女性は1位となっています。大腸がんは部位によって結腸がんと直腸がんに分かれますが、直腸がんは再発率が高く、また肛門に近い部位のため、手術後の排便機能が生活の質に大きく関わるため、外科医の知識と技術がより高度に求められます。当院では大腸を専門的に扱う外科医を定め、治療に力を注いでいます。

以前は大きくお腹を開ける開腹手術を行っていましたが、現在は傷の小さな腹腔鏡手術を取り入れています。腹腔鏡手術には傷の大きさだけでなく、手術後の回復が早く、合併症が軽減されるなど様々な利点があります。また、一定の割合で生じる大きな合併症に「縫合不全」がありますが、当院では手術中に腸管の血流を調べる蛍光造影検査を取り入れ合併症軽減に努めています。チーム医療にも積極的に取り組んでおり、消化器内科や病理診断科と治療方針について毎週検討しています。手術前後には栄養・リハビリ・口腔ケアチームと連携して様々な状況の患者さんの入院治療が安全に行えるよう連携しています。

大腸がんの治療は手術だけではなく、手術前後に行う抗がん剤治療（化学療法）も重要となります。近年ではがんの遺伝子を調べることで、それぞれの患者さんにより適切な薬剤を選択することができるようになっています。抗がん剤治療には様々な副作用も生じてきますが、病棟薬剤師や各診療科とも連携して必要な治療を継続できるような体制を整えています。

大腸がん、大腸の救急疾患では人工肛門（ストマ）がどうしても必要となる場面があります。病気・手術と身体に負担のある中で不安も大きいと思いますが、皮膚・排泄ケア認定看護師（WOCN）を中心に、病棟看護師・外科医師を含め皆で人工肛門の管理について協力しています。

潰瘍性大腸炎やクローン病を中心に炎症性腸疾患が近年増加しています。薬剤治療・手術治療の判断は難しいとされますが、当院では外科・内科で連携して治療にあたっています。クローン病は再発しやすいため、将来再手術が必要になる可能性を考え、癒着が起こりにくいとされる腹腔鏡手術を積極的に取り入れています。

呉共済病院外科は市民のための病院として様々な疾患に対応できる体制を整えています。地域の皆様の健康に役立てるよう、今後も引き続き尽力して参ります。



コンシェルジュサービスをスタートしました!



当院では、2023年4月より新たに『フロアコンシェルジュ』を導入いたしました。すべての患者さんに気持ちよく安心して病院をご利用いただけるよう、院内の様々な場面でサポートし、患者さんの視点に立ったサービスの提供を目標としております。コンシェルジュサービスが浸透する事で、少しでも不安が和らぎ、患者さん一人ひとりに寄り添った市民のための病院となれるよう邁進してまいります。



私たちコンシェルジュは正面玄関周辺、東館1階のフロアに待機し、皆様を笑顔でお出迎えいたします。診察受付のご案内や車椅子のお手伝いなど、患者さんだけでなくご家族の方にも安心して受診していただけるようサポートいたします。何か困ったことがありましたら、お気軽に声をおかけください。ご来院される皆様が笑顔になれるよう、心を込めて対応してまいります。

🌸 コンシェルジュの主な仕事内容 🌸

- ▶ ご来院された方のご案内
- ▶ 巡回バス・タクシーのご利用者さまへのお手伝い
- ▶ 車椅子の方のお手伝い
- ▶ 診察受付のご案内・援助・代行
- ▶ 院内各施設への誘導
- ▶ その他、お問い合わせへの対応、お声掛けなどをさせていただきます。



診療受付のご案内



夏は清涼な青色の制服でお出迎え



昨年より7回（予定）にわたって、看護部紹介をお届けしています！
第5回となる今回は、西7階・血液浄化センターについて紹介いたします。

西7階病棟

—病棟の特徴—

主に、呼吸器内科・呼吸器外科の患者さんで、がん化学療法や放射線療法、手術療法を受ける患者さんが入院されます。治療に伴う苦痛や呼吸器疾患症状等を和らげ、療養生活が少しでも快適に過ごせるように、緩和ケアチーム・栄養サポートチーム・摂食嚥下チームなどの多職種で構成されるチームと連携し、また治療においてがん化学療法認定看護師やがん放射線療法看護師にも積極的に介入してもらい院内全体で支援する体制を整えています。感染症対応のユニットを併設しています。

—病棟の雰囲気—

がんや呼吸困難のある患者さんが安心して過ごせるように、医師やメディカルスタッフ間でコミュニケーションを大切に、日々奮闘しています。

血液浄化センター

—センターの特徴—

呉周辺地域で透析治療を受けられる方々の透析導入期から維持透析、他院で治療中の方が合併症の治療や検査を受けられる際の透析治療も行っています。また、腎不全の治療方法選択のサポートや特殊血液浄化療法も行っています。地域の透析施設とも密接に連携しています。

—センターの雰囲気—

和やかな雰囲気の中で、月曜日から土曜日まで週6日、午前・午後の2クール体制で治療を行っています。ベッドの間隔も広く取ってあります。11階にありますので、呉の町を見下ろせ、特に夕暮れ時は絶景です。

※次回は『ICU・中央手術室』についてお届けします。

—病院の理念—

高度・良質の医療
最善の奉仕
研鑽と協調
地域医療の支援

—病院の基本方針—

一 良質で適切な医療の提供に努めます
二 患者さんの権利を尊重し、患者さんの満足・安心・信頼を追求します
三 新しい知識と技術を積極的に習得し、常に質の高い先進的医療を行います
四 地域の中核病院として、地域社会の要請に応える医療を提供します
五 職員が意欲を持って働ける病院をめざします
六 次代を担う有能な医療従事者の育成をめざします
七 専門的ながん医療の提供に努めます
八 国内での医療救護活動に積極的に参加します



呉共済病院看護専門学校

～人の心に寄り添える自分になる～

令和6年度 入学生募集

教務課長 大亀小百合

本校は国家公務員共済組合連合会 呉共済病院に附属する3年課程(全日制)の看護師養成所です。1904年(明治37年)に開校し、今年で119年を迎える歴史と伝統ある学校で、これまでに2,800名以上の看護師を養成してきました。その伝統は脈々と続き、卒業後は呉共済病院をはじめとする様々な場所で活躍しています。

1学年定員35名の少人数制で、アットホームな雰囲気ときめ細やかな教育を大切にしています。今年から教育の新たな取り組みとして、各学年4～5名と教員1名がグループとなり、学習や係の活動を共に行う体制を整えました。各グループの担当教員が就職活動や生活面などの個別相談を行い、より良い学校生活を送ることができるよう支援しています。

病院実習は主に呉共済病院で実習を行いますが、呉市内の介護保険施設や保育所、地域のサロンなどでも実習しています。学内の授業は医師・看護師・薬剤師・理学療法士など各部門の専門家や大学からの講師、本校の教員が担当し教育体制が整っています。

呉共済病院へ就職後は継続して丁寧な看護教育を受け、地域の皆さんに必要とされる看護師に成長しています。

今年度も看護学生体験を随時行っています。看護に関心のある方、呉市で地域貢献したい方、看護師になりたい方、本校と一緒に学んでみませんか？

看護学生体験や入学試験について、お気軽にお問い合わせください。また、ホームページでも紹介しておりますので、是非ご確認ください。



令和6年度 入学試験日程

指定校推薦・推薦・社会人 令和5年11月9日(木)

呉共済病院看護専門学校ホームページはこちらから 

☎0823-26-7425 平日 9:00～17:00

